

プログラム名	Global Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (夏)」																																																							
実施日	平成 25 年 9 月 12 日 (木) ～9 月 25 日 (水)																																																							
実施先	北マリアナ諸島連邦・Public School System (Northern Marianas High School, Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Elementary School, Kagman Elementary School, Garapan Elementary School, San Vicente Elementary School, Dandan Elementary School, Oleai Elementary School, William S. Reyes Elementary School, San Antonio Elementary School, Kobleville Elementary School)																																																							
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1(OG)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山短期大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>				大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	3	2	17	松山大学	1		4	山口大学	1		8	香川大学	1		5	京都外国語大学	2	2	9	広島経済大学	1		3	九州国際大学	2		5	追手門学院大学	1		4	京都文教大学		1(OG)	1	松山短期大学			1	京都光華女子大学			1	合計	12	5	58
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																					
愛媛大学	3	2	17																																																					
松山大学	1		4																																																					
山口大学	1		8																																																					
香川大学	1		5																																																					
京都外国語大学	2	2	9																																																					
広島経済大学	1		3																																																					
九州国際大学	2		5																																																					
追手門学院大学	1		4																																																					
京都文教大学		1(OG)	1																																																					
松山短期大学			1																																																					
京都光華女子大学			1																																																					
合計	12	5	58																																																					
完了報告	<p>本研修では、UNGL 事業 Global Programs の 1 つとして、英語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通してリーダーシップを身に付ける事を目的とした。特にサイパン研修では、サイパン現地の小学校で自分の得意分野を活かして教育実習を実施することや、ホームステイを体験することで自律性や社会性を養った。</p>																																																							
<p>【プログラム内容】</p> <p>9月12日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備等のためのスタッフがサイパン空港に到着した。 <p>9月13日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイパン教育省との打合せ (10:30-12:00) <p>研修前の最終打合せがサイパン教育省 (Public School System) で行われた。出席者は教員 3 名の他、本研修の参加学生 (以下 Student Teacher* とする。) と受け入れ先の 10 の小学校の校長および副校長が出席していた。会議では、Garapan Elementary School の Ms. Paulette と、San Antonio Elementary School の Mr. James がファシリテートを行った。</p> <p>打ち合わせでは、まず、1 週間のスケジュールが確認された。</p> <p>(本研修の参加学生は、実習生として受け入れ先の小学校へ行くため Student Teacher と呼ばれていた。)</p> <p><9月15日></p> <p>マリアナ高校のカフェテリアにて</p> <ul style="list-style-type: none"> 16:00 : 日本人のみの結団式 17:00 : 同会場にてサイパン教育省主催の Welcome Party <p><9月16日></p> <ul style="list-style-type: none"> 7:15 : スクールバスによる送迎 到着後～14:30 : 授業のアシスタントおよび実習 																																																								

授業実習については、1日1コマのペースで各 Student Teacher に授業への参加をお願いすることとなった。この予定は、20日までということであった。

なお、校長側の意図として、Student Teacher にはサイパンの学校文化を知ってほしいというものがあった。そのため、授業には1名の Student Teacher が1クラスにつくのではなく、学年と越えて色々な学年の小学生にふれあう機会を設ける学校もあるとのことであった。Note taking も良い勉強になると思うのでぜひ勉強してほしい、という意見があった。



<9月18日>

夕方から、教育省近くのグラウンドにて、CNMI Football Association 主催のサッカークリニック (18:00~19:30) とサッカーの試合 (19:30~21:30)

<9月19日>

午前中は、スクールバスツアーの実施

Student Teacher 全員でサイパン島内の観光地 (suicide cliff , banzai cliff など) をめぐり、昼食は近くのビーチでバーベキューを実施

<9月20日>

日本人学生が中心となって Japan Festival を開催予定。

当日の夜は、Student Teacher が日本料理をふるまうことになっている。

<9月21日>

13:00 から Kanoa Resort で参加学生全員での全体ミーティング (振り返りと修了式) の実施

その他、事前打ち合わせの席では、受け入れ先の学校長等からの質疑応答が行われた。

9月14日 (土)

- ・小学校の場所確認 (10:00~15:00)
- ・Sun Palace Hotel とのミーティング (16:00~11:30)

教職員 4 名と、研修参加学生が宿泊する Sun Palace Hotel のオーナー (Ms. Sherlly) とコーディネーターの Kazu Nishida さんの 6 名で、打合せを行った。具体的には、研修参加学生の 15 日および 21 日 (その他該当学生は 13 日、14 日、22 日、23 日) の宿泊予定の確認および空港とホテル間の送迎手段と時間の確認を行った。16 日の朝は、各小学校からスクールバスで迎えにくることになっているため、学生全員がロビーに 6:45 に集合することになっていることを告げた。また、帰国の際のホテルから空港までの送迎については、航空機出発時間の 2 時間前にホテルロビーに学生が集合することになった。打合せ後は、最終振り返りの会場である Kanoa Resort の会場下見も行った。





・教職員ミーティング (19:30~20:30)

14 日までに到着した教職員スタッフのみで、15 日のスケジュール確認および役割分担を行った。15 日は、教員 1 名が学生到着確認のため、サイパン空港にて待機することを確認した。また、15 日到着予定の教職員スタッフについては、運転可能なスタッフで迎えに行くこと、その他スタッフについては時間を見つけて、担当の小学校の場所を確認することとした。緊急連絡先として携帯電話を 2 台レンタルしていたので、代表校の 2 名の教員がそれぞれ持つこととした。

9 月 15 日 (日)

教職員スタッフで現地小学校の場所確認をレンタカーで行った。実習先の小学校および担当教職員の割当は下記の通りであった。実習生の観察を多角的な視点で行うため、本研修では、複数の小学校を複数の教職員で、観察することとなった。各グループには、学生スタッフ 1 名もいる。

(1) 奥村、津曲 : Gregorio T. Camacho E. S., Tanapag E. S.

(2) 辻、中嶋、村田 : Garapan E. S., Oleai E. S.

(3) 秦、村上 : William S. Reyes E. S. San Antonio E. S.

(4) 山中、杉本 : Kagman E. S., San Vincente E. S.

(5) 岸岡、泉谷、鈴木 : Dandan E. S., Kobleville E. S.

・結団式準備 (15:00~15:45)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員で行う結団式の準備を行った。

・結団式 (16:00~17:00)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員の結団式を行った。はじめに、結団式の開会あいさつを秦が行った。次に、本研修が始まった背景および研修意義 (心構え) について山中より説明が行われた。その後、研修の全体スケジュールについて津曲より説明を行い、各小学校の担当教職員紹介が行われた。次に、各小学校の実習生顔合わせのため、自己紹介と本研修への参加動機を各小学校グループで行った。最後に、本研修への意気込みとして、A4 用紙に「1 週間後になりたい自分」を書いてもらい、グループ内で、共有してもらい、研修中はチャレンジすることを意識して行動することを全員で確認した。結団式終了後、学生スタッフから Japan Festival についての情報提供が行われた。



・ Welcome party (17:00~19:00)

サイパン教育省主催のもと、Welcome party が行われた。会場には、サイパン知事の他、Rita Sablan (Commissioner, CNMI Public School System)、Herman T. Guerrero (Chairman, State Board of Education)、日野耕治氏 (在サイパン駐在官事務所長、領事) が来られ、それぞれ歓迎の挨拶をいただいた。パーティーには地元の新聞記者も訪れ、UNGL スタッフへインタビューが行われた (翌日、パーティーの様子やインタビューの内容が新聞記事として掲載された)。その後、各小学校の実習グループと実習先小学校の校長およびホストファミリーの対面式が行われた。実習先小学校の校長やホストファミリーと固い握手が交わされたり、歓迎の意味を込めた首飾り等が贈呈されたりした。会場でふるまわれたディナーを各グループで、楽しみながら、地元の高校生による歓迎のダンスを鑑賞した。

最後に、秦教授より、サイパン教育省および小学校校長、ホストファミリーに向けた御礼の挨拶が述べられた。

・ 教職員ミーティング (21:00~22:00)

教職員スタッフ全員によるミーティングが行われた。秦教授の指導のもと、1 週間の実習生観察のポイントおよび振り返りポイント等が共有された。観察のポイントとして、実習生 (student teacher) が積極的に子どもたちに関わっているかどうか、振り返りポイントとして、積極性を欠いた箇所について言及するよう伝えられた。また、本研修では教職員が多角的な観点に基づいて実習生を観察できるよう複数の人数で 2 つの小学校の実習観察を担当することになった。5 日間の実習をより多角的に観察できるようスケジュール等を各自で調整するよう求められた。



9 月 16 日 (月)

・ 実習生ホテル前集合 (6:45)

サンパレスホテルに宿泊していた研修参加実習生が、各小学校のスクールバスによる迎えを待つため、ホテルロビー前に集合した。担当教職員スタッフも集合し、担当グループの学生の様子を観察した。学生スタッフは、担当グループに Japan Festival についての追加の情報提供を行った。



・ スクールバスによるピックアップ (7:00~8:15)

各小学校から実習生を迎えるためにスクールバスがホテルロビーに到着した。7:00 から順次、迎えにきた。

・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

ここでは、筆者が担当した小学校 (Gregorio T. Camacho Elementary School) の事例を記述する。Gregorio T. Camacho Elementary School では、8:00 から授業が始まり、14:30 に終わるスケジュールであった。実習生たちは、授業アシスタントをしながら、サイパンの小学校の文化を学んだり、実際に授業を行うことで文化の違いや言葉の壁を乗り越えたりしながらサイ

パンの小学生たちと交流を深めた。実習生たちは、日本の文化（折り紙、漢字）を教える授業や、自身の得意な分野（サッカー、ダンスなど）を教える授業を行った。英語能力が高くない実習生の授業でも、言葉以外の領域で工夫をこらし、小学生を楽しませていた。ただし、初日ということもあり、実習生の戸惑いは非常に大きかった。事前の情報では、実習生 2 人 1 組で 1 つのクラスに入るようになっていたが、実際は 1 人 1 つのクラスの担任制となっていた。授業も 2 人 1 組で行う予定であったので、授業をするよう担任教員に求められた際に「2 人で準備してきたので対応できない」とパニックになり、教室を飛び出した実習生もいた。どんな環境にも適応できる力を身につけさせることの重要性を認識した瞬間であった。

・ Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

教育実習最終日の 20 日（金）に各小学校で開催する Japan Festival の準備を行った。Japan Festival は同じ小学校で実習している 6 名の実習生全員で企画・運営する 1 つのプログラムである。実習期間中に、授業後の午後の時間を使って、計画を練った。Gregorio T. Camacho Elementary School の Japan Festival では、ヨーヨー釣り、手裏剣体験、二人三脚、盆踊りをするようになった。

・ 振り返り (15:30~16:30)

小学校の図書室を使って、実習生全員による振り返りが行われた。まず初日の感想を言ってもらった。言葉が分からず、戸惑いや不安ばかりだったが、自分ができることを一生懸命少しずつ重ねて行きたいという感想が殆どであった。また、言葉が分からないことで、小学生にからかわれ、八方ふさがりになっている実習生もいた。これらの感想に対し、担当スタッフが①英語の問題として処理せず、自分にできることを少しでも多く見つけ、リーダーシップを発揮して、環境に適応してほしいこと、②たとえからわれたとしても、1 週間という時間が限られていることを意識し、時間を大切に使うしてほしいこと、③実習生が不安であることと同様に、現地小学校関係者（担任教員、ホストファミリーなど）も大きな不安を抱えて実習生を受け入れていることを伝え、1 週間を自分自身の貴重な経験として消化してほしいとフィードバックした。現地小学校のスタッフは校長も含め、16 時前後には帰宅する習慣があるとのことで、実習生を受け入れる 1 週間は、ホストファミリーとなっているスタッフは全員 16 時半に帰宅するようになるとの申し合わせが交わされているということであった。そのため、この申し合わせに合わせ、Gregorio T. Camacho Elementary School の実習生は 16 時半までにすべての用事を済ませるようにした。

・ 教職員ミーティング (18:00~19:30)

10 の小学校に派遣された教職員スタッフが宿泊施設へ戻り、各小学校の実習生の様子を報告した。実習生の様子とそれに対する教職員スタッフの対応を共有し、スタッフの対応のあり方とそれに対する実習生の成長への影響について議論した。

9 月 17 日 (火)

・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~ 14:30)

2 日目の授業アシスタントが行われた実習生たちは、自分たちのできることを見つけながら、小学生に積極的に関わっていた。

・ Rotary Club 参加 (12:00~ 13:00)

サイパンの Rotary Club が Hyatt Regency で行われた。サイパン教育省の Rita Sablan に U N G L 代表者 3 名が招待された。この日は、Rita Sablan が①中学校・高校の教育システム改革と②日本からの教育実習生受け入れプログラム (U N G L 事業) についての講演を行った。このうち、②については、U N G L 事業の説明を秦教授が記者会見の 1 つとして行った。その後、地元の新聞記者によって教育実習初日の感想や Japan Festival の予告が秦教授に求められた。

・ 振り返り (14:30~ 15:00)

図書室で振り返りが行われた。前日と比較したときの自身の成長点と翌日の目標を決め、実

習生間で共有させた。

- ・ 小学校の教職員会議参加 (15:00~16:00)

毎週火曜日は、Gregorio T. Camacho Elementary School の教職員会議が行われている。実習生受け入れの週も行われ、この日は実習生もオブザーバーとして参加するよう求められた。まず、実習生を受け入れているクラスの担任教師より、実習生の実習の様子が報告された。実習生は全員、とても頑張っていて、小学生も非常に喜んでいることが報告された。英語の力に関わらず、文化の違いを乗り越えて楽しませることが可能であることを、実習生を通して学んだと何名かの教員が語っていた。

次に、Japan Festival の詳細について情報提供が求められた。この日はまだ、Japan Festival の開催についての情報提供ができなかった（詳細が練られていなかった）ため、小学校関係者に報告することができなかった。校長より、Japan Festival は、金曜午後の 14 時半までに終わらせてほしいとの希望が出された。最後に、Gregorio T. Camacho Elementary School のその他の情報共有が教職員間でなされた

- ・ Japan Festival 準備 (16:00~16:30)

Japan Festival 準備が行われた。この日は、2 人 3 脚で用いる水風船づくりに励んでいた。

- ・ 教職員 ミーティング (18:00~19:30)

各小学校の実習生の様子の報告がなされた。

9 月 18 日 (水)

- ・ 地元のラジオ生放送出演 (7:00~8:00)

KKMP ラジオステーションにて、PSS talk show に出演した。出演時間は 15 分程度であった。「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」の研修概要や、なぜ研修を始めるにいったか、などを秦教授が語った。インタビュアーはラジオ局の Mr. Gary 他、Garapan Elementary School の Paulette 校長であった。

- ・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

授業アシスタントと授業実習が行われた。3 日目となり、実習生もサイパンの小学校文化に大方慣れてきたようで、あった。英語も積極的に使えるようになり、少しずつ自信をつけているように感じられた。



- ・ Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

Japan Festival 準備が行われた。

- ・ 振り返り (15:30~ 16:30)

成長点と改善点 (翌日の目標) が共有された。

- ・ サッカークリニック (18:00~19:20)

CNMI サッカー協会主催のサッカークリニックが行われ、UNGL スタッフおよび参加を希望した実習生が参加した。得意なスポーツを武器にして実習生はサイパンの小学生や中学生との交流を図っていた。

- ・ CNMI ナショナルチームとのサッカー試合 (19:30~21:30)

サッカークリニックに続いて、ナショナルチームと UNGL チーム (参加希望実習生 15 名程度) とのサッカーの試合が行われた。試合には、UNGL 関係者はもちろん、ホストファミリーや小学校の関係者なども多く観戦に



集まっていた。試合は 2 - 6 で、惨敗ではあったものの、非常に興味深いプレーが続出した。試合序盤や中盤には、愛媛大学のダンス AZ チーム（全員本研修の参加実習生）がダンスを披露した。この様子は、翌日の地元の新聞に大きく取り上げられた。

10 月 19 日（木）

- ・スクールバスで教育省前に集合（8:45～9:00）

各小学校の実習生がスクールバスに乗って、教育省前に集合した。この日は、教育省および小学校主催のスクールバスツアーが開催されることになった。

- ・スクールバスツアー（9:00～ 11:30）

Suicide Cliff や Banzai Cliff など、サイパン島内のツアーが行われた。日本とサイパンの文化や歴史などに触れ、実習生は本研修の意義を改めて再確認したようであった。また、過去の歴史に触れることで、現在自分たちが生きていることそのものや、将来自分たちが日本人として何をすべきかについて再確認したとの報告も後にあがっていた。

- ・ランチ（11:30～12:00）

教育省が準備したランチを Minachom Atdao でとった。

- ・各小学校へ移動（12:00～12:15）

実習生はスクールバスで、各小学校へ移動した。

- ・Japan Festival 準備（12:15～16:30）

Japan Festival 準備が行われた。ヨーヨーづくりなどが行われたが、時間内に準備が終わらず、ホストファミリー宅へ持って帰り、ホストファミリーの助けを借りながら準備を進めていたようだ。

9 月 20 日（金）

- ・Japan Festival 準備（8:00～13:00）

Japan Festival の準備がカフェテリアにて行われていた。途中、授業実習に出る者もいた。授業実習では、実習最終日としてクラスの生徒たちからのサプライズもあったようだ。感動して涙する実習生も多かった。



- ・Japan Festival 開催（13:10～14:20）

Japan Festival が運動場で開催された。全校生徒および全教職員が参加した。まず、オープニングでは、実習生がハッピーを着用して、教育実習を受け入れてもらったことへの感謝と Japan Festival を楽しんでほしいとの挨拶があり、日本の言葉「わっしょい」をかけ声として皆で共有した。

全校生徒はヨーヨー釣りや手裏剣、二人三脚などを楽しんでいた。BGM として日本の音楽（三味線の音楽や和太鼓の音楽、盆踊りの歌など）が流れており、サイパンの子どもたちも楽しんでいた。また、ヨーヨーや手裏剣などは、全校生徒に 1 人 1 個ずつ渡され、非常に嬉しそうで

あった。Festival 終了後は、全校生徒全員で記念撮影をした。

1 週間の準備の成果が見事に実った Japan Festival であった。なお、この模様は別の小学校で、新聞記者によって大きく取り上げられ、翌週の新聞に掲載された。



・校長をまじえた振り返り (14:30～ 15:30)

教育実習最終日の振り返りは、校長をまじえて行われた。校長はまず、小学校に来てくれてありがとうという一言と実習生が来てくれたおかげで小学生たちが非常に楽しそうであったし、文化交流の重要性を再認識できたとの報告が実習生に伝えられた。実習生たちの感想も求められ、実習生たちは次々に「英語ができなくて戸惑いばかりだったけれど小学校の皆さんが温かく受け入れてくれてとても助かった。この 1 週間は自分たちにとってかけがえのない時間だった」と語った。

9 月 21 日 (土)

・会場下見 (10:00～ 11:00)

午後開催の最終振り返りの会場である Kanoa Resort の Seaside Hall の下見を行い、ホテルロビーのスタッフの方と最終打合せを行った。振り返りに必要なもののうち、足りないものをホテルロビーのスタッフに交渉し、揃えてもらった。

・オプションツアー受付 (11:00～13:00)

22 日のオプションツアーの受付をパウパウツアーの担当の方に Kanoa Resort の入り口で行ってもらった。この対応の補助について。また受付補助につきながら、振り返り会場を訪れた実習生のメンタルサポートはもちろん、振り返り会場に実習生を連れてきたホストファミリーへの対応も行った。このとき、研修についてのホストファミリーの感想等もインタビューすることができた。

・会場設営 (13:00～ 14:30)

振り返り会場である Seaside Hall の設営を行った。PC とスクリーン、椅子の設置、音響整備等も行った。

・最終振り返り・修了式 (14:30～13:00)

振り返りが秦教授の指揮のもと行われた。まず、実習グループごとに 1 週間の振り返りが行われた。1 週間で自分自身が変わった点、今後目指して行きたい目標 (理想像) についての共有が行われた。次に、全体で集まり、本研修の意義が改めて再確認された。秦教授による研修のポイントと今後の成長に活用していくためのポイント等も共有された。

振り返り後、学生スタッフによって編集された動画および写真のスライドショーが行われ、修了証書が授与された。



・懇親会・修了パーティー（18:00～22:00）

CNMI サッカー協会会長の Jerry Tang 氏主催による懇親会および修了パーティーが行われた。このパーティーには、実習生および U N G L スタッフの他、各小学校の校長も招待された。懇親会中盤には、サイパン教育省より実習生と教職員スタッフ向けにプレゼントが贈呈された。プレゼントはサイパン教育省 T シャツや北マリアナ諸島連邦の歴史などが記された本、マグカップなどがあった。

9 月 22 日（日）

・最終打合せ（10:00～11:30）

学生への個別インタビューを行うため、インタビュー項目の調整を行った。特に研修を通して感じたスタッフの所見等を活用しながらインタビュー項目の生成につとめた。

・学生への個別インタビュー（14:00～17:00）

ホテルに滞在中の学生へ、研修参加の感想をインタビューで聞いた。研修で興味深かったこと、今後の成長につながりそうなポイント、今後の改善点などを詳細に聞いた。

9 月 23 日（月）

・教育省訪問（10:00～11:00）

教育省を訪問し、1 週間の実習の受け入れの御礼と今後の受け入れについてのお願いを行った。

9 月 24 日（火）

・教育省訪問（10:00～11:00）

教育省 T シャツの受け取りのため、教育省を訪問した。

[目次へ](#)